病防第３５号
令和７年（２０２５年）９月１７日

各関係機関長　様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報について（送付）

このことについて、令和７年度（２０２５年度）病害虫発生予察注意報第３号を発表しましたので、送付します。

注　意　報

令和７年度（２０２５年度）病害虫発生予察注意報第３号

病害虫名　果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

１　発生地域　　県内全域
２　発生時期　　９月中旬以降
３　発生程度　　多
４　注意報発表の根拠

（１）果樹カメムシ類のヒノキ結果枝における寄生密度は８月以降急増している（図１）。飛来源である山林内の発生量は平年より多く、直近の多発年である令和５年秋季より多い。

（２）８月下旬以降、県内３地点の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数がいずれも急増している（図２）。今年は、山林から離脱し果樹園へ飛来を開始する時期が８月下旬から９月中旬と予想されており、今後さらに飛来数が増加する恐れがある（令和７年８月19日付け病害虫発生予察技術情報第６号）。

（３）現在までに熊本市、宇城市、天草市の一部のカンキツ園で飛来が認められている。

（４）福岡管区気象台が９月11日に発表した九州北部地方１ヶ月予報によると、向こう１ヶ月の気温は平年より高く、今後も果樹カメムシ類の活動が活発な状態が続くと予想される。

５　防除対策

（１）果樹カメムシ類は、局地的に飛来して被害をもたらすことがあるので、定期的に園を見回り、早期発見と薬剤による初期防除を徹底する。特に、山間部や林地沿い園地は被害を受けやすいので注意する。

（２）チャバネアオカメムシとツヤアオカメムシの予察灯誘殺データを病害虫防除所のホームページ（https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html）に掲載しているので、最新の誘殺状況を確認し、防除要否や適期防除の参考にする。

本注意報は、病害虫防除所ホームページに掲載しています。
「https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html」

（３）果樹カメムシ類は日没直後に果樹園に飛来し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の薬剤防除が有効である。ピレスロイド系殺虫剤（ＩＲＡＣコード：３Ａ）は、ハダニ類及びカイガラムシ類の天敵への影響が大きく、多用するとこれらの発生を助長する恐れがあるため、最小限の使用にとどめる。

（４）農薬の使用に当たっては、定められた使用回数・濃度・使用量・使用時期を遵守するとともに、周辺作物への飛散（ドリフト）に注意する。また、付近にミツバチの巣箱が設置してある園では、事前にその管理者に連絡するなど、農薬による危害防止に努める。

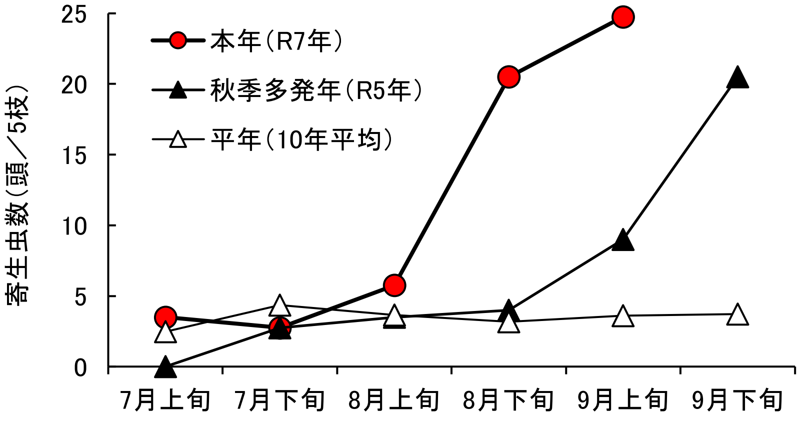

図１　ヒノキ結果枝における果樹カメムシ類寄生密度の推移（４地点平均）

補虫網を使用したビーティング（たたき落とし）による調査

果樹カメムシ類は、３種（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）の合計

熊本市１地点、合志市１地点、宇城市２地点

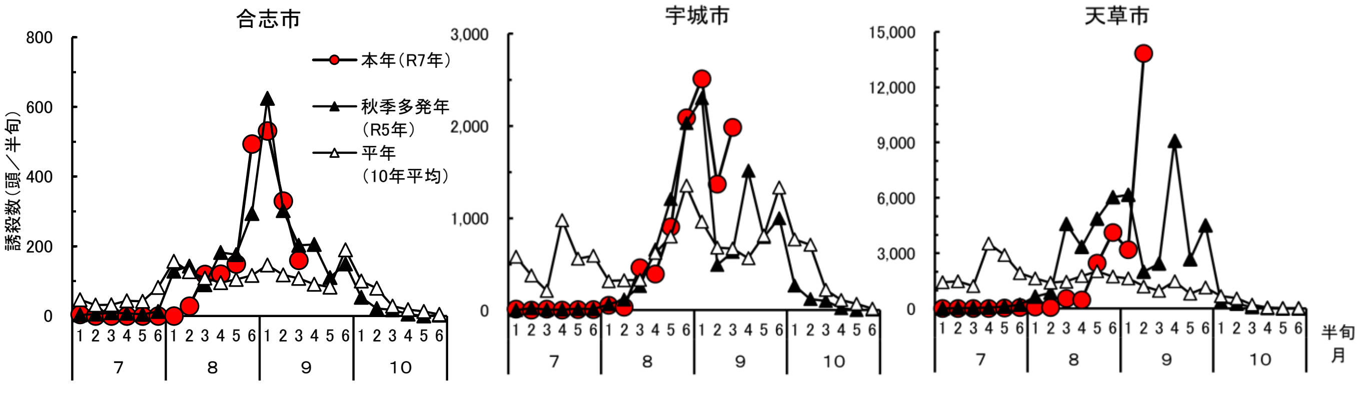

図２　予察灯における果樹カメムシ類誘殺数の推移

合志市　　　　：３種（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）の合計

宇城市・天草市：２種（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）の合計

熊本県病害虫防除所
（農業研究センター生産環境研究所内）
担当：清永　　　TEL 096-248-6490